



安全安心だより

令和7年度No.5

～子どもの傾向・車の特性について～

1 はじめに

松山市教育支援センター事務所では、今年度もスクールガード・リーダーと一緒に市内各小・中学校の単位PTAを訪問して、登下校の安全安心に向けた情報共有を行いました。

この中で、登下校時の児童の交通安全に関する話題が多く上がりましたので、今回は、子どもの傾向・車の特性に注目して、交通事故防止についてお知らせします。

2 子どもの傾向

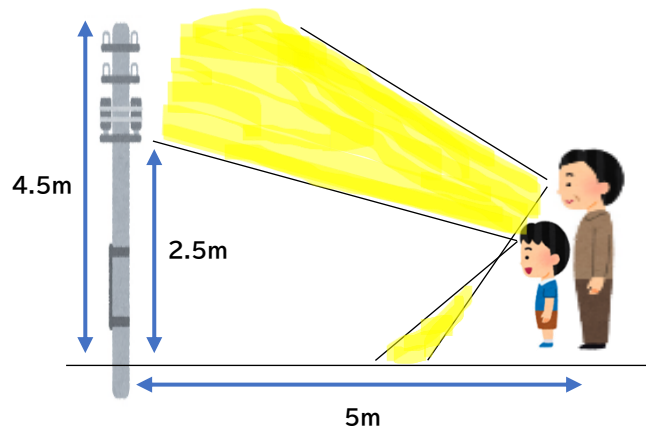
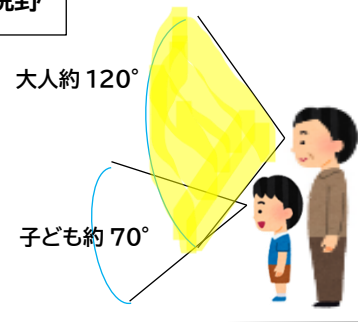
- (1) 小学生、特に低学年は、大人よりも視野が狭く、視点も低いため、大人から見えている危険が子どもには見えていないことがあります。
- (2) 子どもは判断を大人に依存する傾向があります。
- (3) 子どもによって、危険予測や危険回避能力に差があります。

大人と子どもの視野の違い

垂直視野

大人約 120°

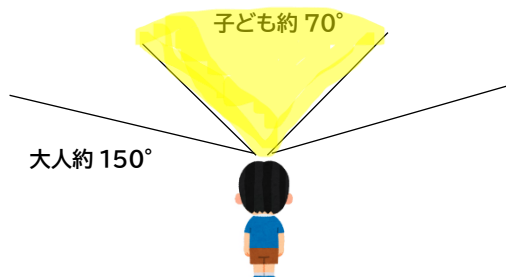
子ども約 70°



水平視野

子ども約 70°

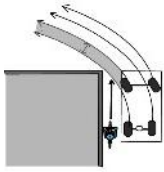
大人約 150°



子どもから見えていない部分に注意が向けられるように、声掛けや指さしをしてあげることが有効です。

3 車の特性

(1) 内輪差



車が右左折するとき生じる内輪差。大きな車になるほど内輪差は大きくなります。巻き込まれる危険を考え、交差点では少し下がったところで待つように指導してください。

(2) 死角



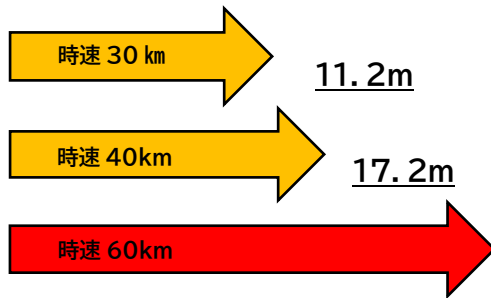
車には、ドライバーから見えない部分(死角)があります。



信号待ちの際、車両のすぐ横にいると死角に入りやすく、ドライバーから見えていないことがあるので、大変危険です。

(3) 車の速度と停止に必要な距離

～車は急には止まれない～



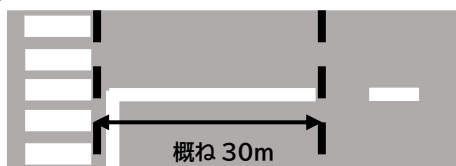
ブレーキをかけてから、停止できるまでの距離

※ 進行してくる車に止まってもらうときは、十分な距離が必要です。

(4) 十分な距離のめやす

道路標示により距離を目測できます。

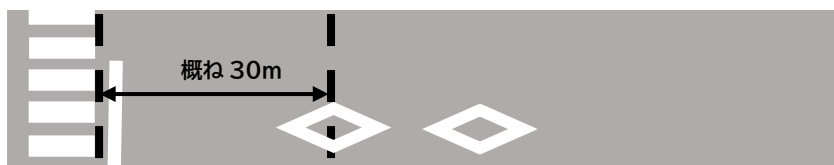
(例1)



←センターライン

横断歩道の側端から破線になるまでの直線部分が概ね 30m

(例2) 「横断歩道又は自転車横断帯あり」の道路標示(いわゆるダイヤモンド)



(以上「交通安全 子ども見守りハンドブック 京都府警察」参照)

見守り活動は、子どもの安全を守る大切な行動です。子どもたちの安全のために、基本的な知識を持っていただくと幸いです。

～「子ども安全安心対策推進事業」に関するお問い合わせ先～
松山市教育支援センター事務所(安全・安心担当)
電話:089-943-3205 まで